

稲作ワンポイントアドバイス(No6)

令和4年7月21日
JA山口県長門統括本部
長門農林水産事務所農業部

いもち病の注意報が発令されました。
出穂前後の基幹防除を確実に行いましょう。

1 生育等の状況 ※調査データの平年値と比較 ()内は平年値

	草丈	茎数	葉齢	葉色
5月上旬植え コシヒカリ	- (出穂期のため記載無)	- (出穂期のため記載無)	早い 13.8L (12.7L)	平年並 4.0 (4.0)
5月中旬植え ひとめぼれ	長い 88cm (80cm)	平年並 23本 (23本)	早い 13.3L (12.0L)	やや濃い 4.3 (4.0)
5月下旬植え きぬむすめ	やや長い 84cm (80cm)	平年並 23本 (22本)	やや早い 12.7L (11.9L)	淡い 4.1 (4.6)
5月下旬植え あきだわら	平年並 77cm (79cm)	やや少ない 18本 (21本)	平年並 11.8L (11.3L)	淡い 4.3 (4.9)

- 7月19日にいもち病注意報が出されました。
県内での葉いもちの発生ほ場率は過去10年で最も高く、長門管内においても全域で確認され、特に三隅では全株で葉いもちが発生しているほ場もあります。
- 7月4日に斑点米カメムシ類の注意報が出されました。
過去10年で最も発生が多く、畦畔等でカメムシ類が多発しています。
- コシヒカリとひとめぼれの出穂期は平年と比べ6~7日程度早まりました。
- 5月下旬植え きぬむすめでは、幼穂形成(1mm程度)が始まりました。
5月下旬植え あきだわらでは、幼穂形成が始まった(1mm程度)ほ場が一部確認されました。
- 出穂期(ほ場のうち50%で穂が見えたとき)の予想

品種	移植期	出穂期の予想	調査ほ場の出穂予想
きぬむすめ	5月下旬	平年より4日程度早い	8/11~14
あきだわら		平年より1~3日早い	8/12~14

2 今後の管理のポイント

(1) コシヒカリ・ひとめぼれ

- カドミウム吸収抑制のため、湛水管理を行いましょう。



(2) きぬむすめ・あきだわら

○水管理

- 中干し後、間断湛水を行い、出穂20日前からカドミウム吸収抑制のため、湛水管理を行いましょう。

○肥培管理

●緩効性肥料（元肥一発肥料）の場合

- ・極端に葉色が薄い場合（葉色3.5以下）は、出穂前15日に、窒素量で1～1.5kg/10a程度、積極的に追肥を行いましょう。

●穂肥一発肥料（穂づくり640）の場合

- ・幼穂1mmを確認して窒素成分で4.8kg/10a（穂づくり640 30kg/10a）を施用しましょう。

●分施の場合

	穂肥1回目	穂肥2回目
きぬむすめ	幼穂1mmを確認し、 窒素成分で3kg/10a	出穂前15日頃 窒素成分で2kg/10a
あきだわら		

(3) 病害虫・雑草の管理等

病害虫発生予報（7月19日 山口県病害虫防除所発表）

葉いもち	多い 注意報	ヒメトビウンカ	少ない	コブノメイガ	平年並
紋枯病	平年並	セジロウンカ	少ない	斑点米カメムシ類	多い 注意報
		トビイロウンカ	平年並		

【いもち病】

- ・葉いもちの病斑が上位葉（止葉や次葉）にないか観察してください。病斑を確認次第、直ちに防除を行いましょう。
 - ・去年発生したほ場で、葉いもちが発生していないか確認してください。
- ※日当たりの悪いほ場や葉色が濃いほ場、いもち病に弱いあきだわらは特に注意しましょう。
- ・穂いもちへの感染やカメムシ類の発生を抑えるために、**出穂前後の基幹防除を必ず行いましょう。**



葉いもち写真

【その他】

- ・紋枯病の常発田では出穂前25日～14日に防除しましょう。
- ・カメムシ類の加害抑制のため、**出穂2週間前までに畦草を刈り終えましょう。**

(4) その他

- ・熱中症のリスクが高い気温が続きます。こまめに水分と休憩を取り、熱中症を予防しましょう。

長門の水稻の病害虫発生状況、生育状況等をLINEにより発信しています

